

なぜロボットを道徳的行為者と見なすべきなのか

Jiang Xuefei

大阪大学大学院人間科学研究科

本発表は以下の三つの根拠から、ロボットを道徳的行為者と見なすべきであることを示す。(1)ロボットを道徳的行為者と見なすことのメリットと、それを認めないことのデメリットを示す。(2)ロボットを道徳的行為者と見なすべきではない立場の根拠を提示し、それらは妥当ではあるものの、ロボットを主体とする場合に、ある程度緩和することができる¹と論じる。(3)道徳的行為者の視点ではなく、倫理そのものの観点からロボットを道徳的行為者と見なすべきことの根拠を提示する。

(1)自律的なロボットにより引き起こされたある行為の結果に対して、その行為と関わりのある関係者は複数がいるので、明確に誰か一人または単一の集団に道徳的責任を帰属すること、あるいはすべての関係者のそれぞれに適切な道徳的責任を割り当てる²ことが、ロボットの複雑化に伴って、次第に難しくなっている。この状況、つまり道徳的責任の帰属の困難に対してロボットを道徳的行為者と見なすことは有益であることを論じる。一方、もしロボットを道徳的行為者と見なさないなら、人間からロボットに向ける残酷な行為に対して、理論上に正当的な非難を行うことが難しいというデメリットがあることを提示したい。

(2)それにもかかわらず、ロボットを道徳的行為者と見なすべきではない立場からの多くの批判は無視することができない。道徳的行為者は従来人間だけに限定されてきた概念であって、それはロボットが有していないが、人間が所有している何らか重要な性質に依存していると一般に思われる。そのような性質を根拠にした、ロボットを道徳的行為者と見なすことへ多くの批判がある。しかし、これらの性質あるいは条件は、すべての道徳的出来事にとって必ずしも必要条件にはならないことを示す。

(3)人間のみを道徳的行為者とみなすことは、確かに長い伝統を持っている。しかしその一方で、道徳的行為者とは人間であるという考え方は、倫理そのものの範囲に制限を加え、倫理の拡張と更なる進化を妨げる傾向がある。本発表では、そのことを示すことによって、ロボットを道徳的行為者と見なすべきだという主張を擁護したい。